

雑 録

笹 屬 の 矮 小 笹 區 (Brachycladae)

小 泉 源 一

笹類は或外因により絶えず壓迫を蒙ると、限りなく小形となり、頗る矮小のものとなり、一見甚しく固有の形態と異なるものとなる、而此の如きものは又よく開花するを以て、よく採集者の採る所となり腊葉室に入る、採集者は如此ものをば此笹は此の如きものとして報告するも總て之等は大きな注意を要するものである。

中井博士が植物研究雑誌十一卷九號に擧げられし本區の内には、勿論かゝる形態のものもあらんが、野外に於て觀察すると、中には本區のものにあらずして他區のもの矮小形に過ぎぬものも見當る。

シナノササ (*Sasa senanensis* REHDER) は舊來の如く又真正笹區 (*Eusasa*) に逆返するをよしとす、*Bambusa senanensis* var. *ontakensis* FR. et SAV. もシナノササが矮小とされるものに他ならぬ。

イブリササ (*Sasa chitosensis* NAKAI) も實地にて見れば高さ一米突以上になりて枝を岐ち、節を少しも隆起せずナンブスズ區 (*Acrocladula*) に入るべし。

キタミササ (*Sasa kitamiana* NAKAI) も原產地たる北見國常呂村、太幌の岩本山の笹叢にて見れば、オホバササ (*Sasa megalophylla* MAK.) の矮小形になり桿面に微毛さへ發生するに到れる型なり、而原品には記載になけれども實は葉鞘の最下者には長毛を生ぜり、ウリウササ (*Sasa sylvatica* TATEW.) もオホバササに他ならぬものならん。

エゾミヤマササ (*Sasa Tatewakiana* MAK.) も實地で見ればソフウンササ 大のもの矮小形にして大桿區 (*Macrochlamys*) へ轉籍すべし。

ケナシエゾミヤマササ (*Sasa Tatewakiana* var. *glabrifolia* MAK.) は亦實地に於て檢すればハナササ (*Sasa spectabilis* NAK. et MAK.) の矮小形品にして、ハナササは從來唯花葯のみで記載されしも、其特異なる花序は實地に於て何笹なるかは一目明白である、之も大桿區 (*Macrochlamys*) のものである。

テシラササ (*Sasa tesioensis* TATEW.) も實地知駒岳に於て觀察すれば高さ二米突もあり盛に分枝するもの、矮形品なるは其特異の性狀よりして容易に察するを得べし、本品は甚大桿區品の如き形態あれども真正笹區のもの如し。

オクエゾササ (*Sasa pilosa* NAKAI) も天塩國間寒別ヌプロマツボロにて實地で見ればクマイササ (*Sasa paniculata*) の矮小形のものである。